
アキタラクティブ アイ

Akitaractive Eye

～主体的・対話的で
深い学びのために～

図画工作，美術編



秋田県総合教育センター

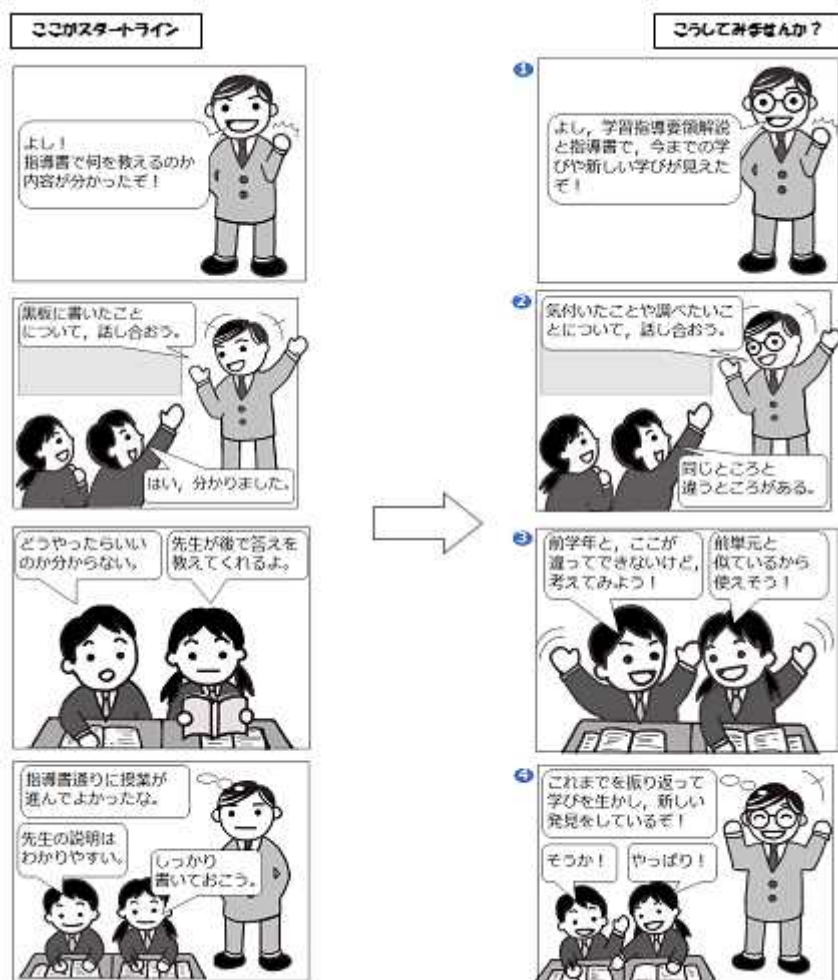
2019.10.10

これまでの学びを振り返り，学びの中での気づきを手掛かりに新たな学びが始まる。

図画工作
美術

キーワード

ねらいを明確にした授業づくり
造形的な見方・考え方を働かせる



1 わくわく授業をするために

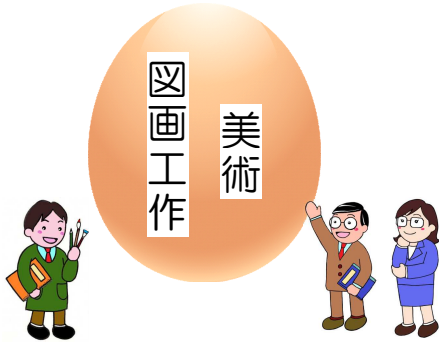
◇資質・能力を焦点化する

「学習の中心」となる考えを明確にします。
例) 伝達のデザインとしてピクトグラムを制作する題材について考えると…

ピクトグラムを描くこと自体が学習の中心ではなく、「目的や条件などを基に、他者や社会に形や色彩などを用いて美しく分かりやすく伝える、生活や社会の中でのデザイン」について考えることが、ここでの学習の中心となります。

◇入念な教材研究をする

- ・教師「学習のねらいー学習活動ー評価」、子ども「学習課題・めあてー振り返り等」に整合性をもたせます。
- ・学習指導要領の趣旨やねらいに基づいて、どのような題材や方法で子どもがいちばん学べるかを考えます。
- ・子どもたちの意欲を喚起する題材名を工夫します。
例) 「校舎を描こう」→「〇〇な校舎を描こう」
「木を描こう」→「〇〇な木を描こう」



2 3 学びをつなげるために

◇教科等の特質を踏まえる

- ・ 図画工作，美術の特質に応じた物事を捉える視点や考え方→造形的な見方・考え方

感性や想像力を働かせる
対象や事象を造形的な視点で捉える
自分としての価値や意味をつくりだす

- ・ 子どもたちの造形的な見方・考え方が働き、活用されるためには、教科の本質に迫った、目的の明確化された授業づくりが大事です。
- ・ 表現及び鑑賞の活動を通して、生活や社会の中の形や色などと豊かに関わる資質・能力を育成することを一層重視します。
※上記は小学校，中学校は美術や美術文化

◇子どもの声に耳を傾け受け止める

- ・ 子どもが捉えた形や色，イメージなどを手掛かりに子どもの考えや思いを聞きましょう。何を表したいのかが分かり，子どもに寄り添ったアドバイスができます。
- ・ 教師が題材のねらいを明確にもって，子どものよさや進歩している点などについて共感的な声掛けをしましょう。
- ・ 「ここには〇〇色を塗って見たら？」「もっと大きくつくって見たら？」など教師の思いが先立ったアドバイスになっていませんか？その作品は誰のものかを考えて，子どもが最終決定できるようなアドバイスをしましょう。

4 新たな学びを出発させるために

◇適宜、振り返る場面を設定する

- ・ 材料とじっくり向き合ったり，一度つくったものを改めて見て新たなものをつくりだしたりするなど，試行錯誤を繰り返して表現できる時間と場を確保しましょう。
- ・ 言語活動は思考力・判断力・表現力等を高めるための手立てです。活動の目的を明確にし，題材のまとまりの中で適切に位置付けます。

◇課題づくりの場を設定する

- ・ 子どもと教師が学習のねらいを共有することが大切です。
- ・ 子どもが自分の感覚や行為を通して，活動や表したいことを思い付くように題材の提示を工夫しましょう。
- ・ 子どもの気付きを生かしながら，造形的な視点を基に表現活動と鑑賞活動が往還する学習過程を重視しましょう。
- ・ 主題を重視することは，教師も作品の完成度だけを評価するのではなく，子どもが主題を表現するための思考の過程を重視し，子どもの様々なよさや工夫を認めることにつながります。

互いの考えを伝え合い、相手の考えを受け止め、自分の考えを練り直す。

図画工作

美術

キーワード

表現と鑑賞の関連を図った指導
〔共通事項〕を位置付けた指導



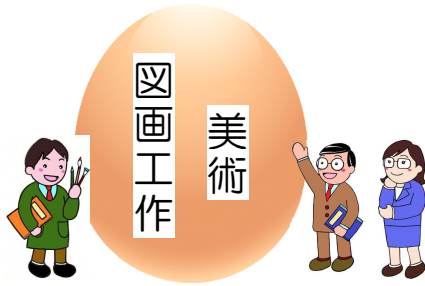
1 ねらいに迫る授業をするために

◇学習活動を吟味する

- ・ 1 単位時間の授業の中で学習活動の全てが実現されるものではありません。題材など、内容や時間のまとまりの中で学習活動を設定しましょう。
- ・ 導入時の説明、題材計画の中の鑑賞活動や言語活動の位置付けを吟味し、子どもの活動の時間を確保しましょう。

◇効果的な学習支援を考える

- ・ 発達の段階を考慮しながら、子どもたちが自分のやりたいことをできるようにするための材料や用具、場所を用意しましょう。
- ・ 材料から発想を広げたり深めたりするために、種類や量を豊富に用意したり、逆に絞ったりして工夫しましょう。
- ・ 教師が明確なねらいをもった上で、子どもたちへ参考作品を提示しましょう。
- ・ 材料や用具を試すコーナーなどを充実させましょう。



2

「見方・考え方」が働くようにするために

◇これまでの学習を踏まえる

- ・子どもがどのような材料や用具を経験しているのかを把握しておきましょう。
例) 前学年の年間指導計画に目を通す。
- ・子どもが自分の感覚や行為を通して形や色などを捉える経験を重ねることで、表現したり、鑑賞したりするときに、形や色などに着目し、活動するようになります。

◇多様な展開を考える

- 例) 友達と思い付いたことを表したいと思ったときに一緒に活動できる場所を用意する。
いろいろな形や大きさの紙を用意する。
動く仕組みや用具だけを提示する。
子どもが失敗だと思っている箇所を修正するための材料や用具、方法を教師が知っておく。

3

気付きを生かした展開にするために

◇子どもの思考の流れを理解する

- ・子どもが活動する中で自分のイメージに気付き、活動の展開を図ることができるようにします。そのためには、思ったことを簡単な絵や図にかきとめたり友達と語り合ったりする場を設定することが有効です。
- ・想像することや用具を使うことに没頭するなど、活動そのものに夢中になっている姿も大切にしましょう。

◇想定外の反応にも柔軟に対応する

- ・子どもは思った通りに表現できないときは、次々に試したり、考えや方法を変えたりして活動しています。子どもの「つくり、つくりかえ、つくる」姿を大切にしましょう。
- 例) 「絵の具で塗っていたけど、壁のゴツゴツした感じをクレヨンでかきたいな」
「紙を貼って魚のウロコをつくってみたいな」
「背景にマーブリングを使ってみたいな」

4

問題解決における一連のプロセスを重視するために

◇子どもの試行錯誤を大切にす

- ・新たなことを思い付いて試す、再構成する、考えや方法を変えるなどの「つくり・つくりかえ・つくる」姿を学びの過程として大切にしましょう。
- ・子どもが自分の感覚や感じ方を頼りに試行錯誤できる時間が必要です。

◇獲得した学びをまとめる場を設定する

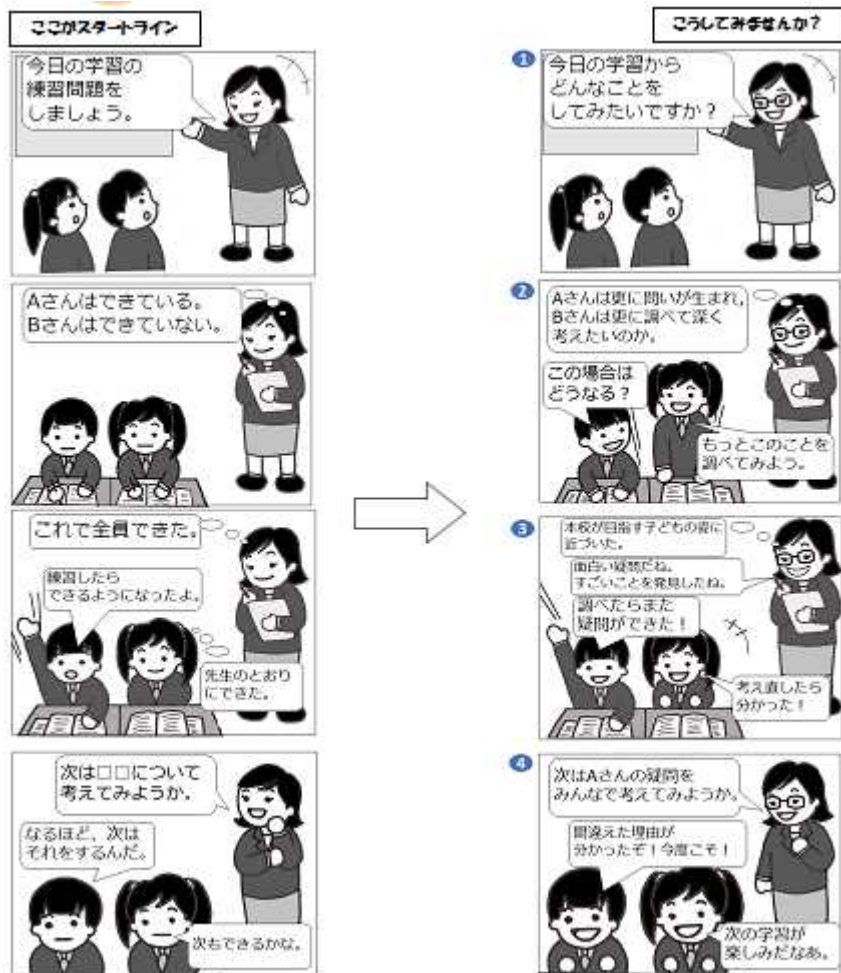
- ・学んだことは何かを押さえます。「作品ができた」、「〇をつくった」など、活動だけの振り返りにならないようにしましょう。
- ・子どもが互いの見方や感じ方、考えなどを交流することで、新しい見方に気付いたり、価値を生み出したりすることができるようになります。

連続する学びは力へ。 新たな学びの獲得と新たな学びを創出する。

図画
工作
美術

キーワード

学びを生活や社会とつなげる
指導と評価の一体化
鑑賞の環境づくり



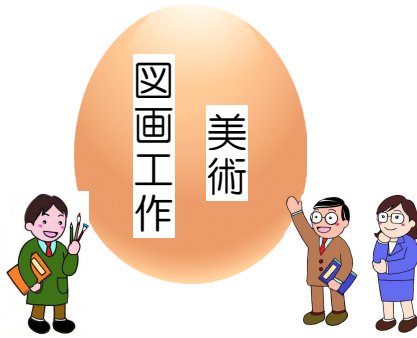
1 活用・発揮を促すために

◇学んだことが活かされる場面を設定する

- 子どもの学びを生活や社会とつなげて気付かせる工夫をしましょう。
例) つくった作品を実際に使ったり、展示したりする。
ものを選んだり飾ったりするときに形や色に思い入れをもてるようにする。
美術の文化遺産を見るために寺社や博物館などを訪れる。
美術館を訪れ、鑑賞に親しむ。
- 地域などと連携した取組を行う際は、関わる人たちみんなが目的の共通理解を図りましょう。

◇振り返りから課題を引き出す

- 子どもの気付きを引き出しながら学習課題やめあてに照らして振り返ることで、次の活動への意欲を高めることができます。
- これまでの学びを振り返り、子ども自身が自分の表したいことを再確認、再構築する場面を設定します。



2 学びを見取るために

◇評価方法を検討する

- ・ 目指す子どもの姿を明確にします。
- ・ 題材などの内容や時間のまとまりを見通しながら、子どもの学びの実現状況を把握できる段階で行うなど、評価の場面や方法を工夫します。
- ・ 作品だけの評価ではなく、設定した評価規準に基づき子どもの学習過程も見取ります。

◇授業プランを修正する

- ・ 指導のねらいに応じて授業の中で子どもの学びを振り返り、学習や指導の改善に生かしていくことが大切です。
- ・ これまで慣行とされてきたことでも、必要性・妥当性が認められないものは見直していきましょう。

3 学びの実感を促すために

◇子どもの変容を取り上げる

- ・ 子どもの活動の様子をよく見たり、言葉に耳を傾けたり、どのような考えや思いをもっているのかを知ろうとすることが大切です。
- ・ 教師が日頃から一人一人のよさや個性を認めていると、次第に子どもは自分や友達のよさや個性に気付いていくようになります。

◇フィードバックして働き掛ける

- ・ 題材全体の中に適切な鑑賞の時間を位置付け、〔共通事項〕を基に自他の活動を確かめたり、振り返ったりする場を設定します。
- ・ 子どもたちが表現や鑑賞で学んだことを造形活動で生かしている場面を見逃さずに取り上げて、価値付ける言葉掛けをしましょう。

4 新たな学びを創り出すために

◇学習全体を振り返る場面を設定する

- ・ 子どもが自分で「こんなことができるようになった」と学びを実感できる場を設定します。
- ・ 発表の際には、作品等を見やすく提示し、学びをみんなで共有することが大切です。
- ・ 作品票に書くのは感想か？説明か？を吟味しましょう。

◇新たに学びが連続するようにする

- ・ 身に付いた力や知識としての〔共通事項〕を子どもが実感しながら他の題材で生かすことができるよう題材を関連付けた指導計画を立てます。
- ・ 校内外の作品展示や表現の過程を記録した展示物などは、造形活動の意味や価値を地域の方々などに伝えるとともに、子ども自身の表現や鑑賞の活動への意欲を高めます。

Akitaractive Eye

～主体的・対話的で深い学びのために～

